

児童室だより No. 81 (2012. 10発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p>『こんにちはといっごらん』</p> <p>マージョリー・W.シャーマット作 リリアン・ホーバン絵 さがのやよい訳 童話館出版 2012.2 【小低】</p>	<p>ネズミの女の子パネッサには、友だちがひとりもいません。ひっこみじあんで、友だちをつくるなんて世界で一番おっかないことだと思っているのです。でも、おかあさんに、一度ためしてみたらと言われて、ひとりでいたヤギのリサに「こんにちは」と声をかけますが、声が小さくてとどきません。こんどは、ずっと大きな声でヒキガエルのシグモントに声をかけると、驚いてとんでいってしまい、なかなかうまくいきません。</p> <p>(J933-シャ-1110443797)</p>
<p>『アンナのうちはいつもにぎやか』</p> <p>アティヌーケ作 ローレン・トビア絵 永瀬比奈訳 徳間書店 2012.7 【小中】</p>	<p>アンナ・ハイビスカスは、アフリカの都会に住む女の子。大きな家に、両親、ふたこの弟、祖父母、おじさんおばさん、たくさんのおいとこたちと暮らしています。たまには静かなのもいいと、両親とアンナと弟たちだけで旅に出ますが、幼い弟たちの世話は大変！結局、家族全員呼びよせられたという「アンナのかぞくは、いつもいっしょ」のほか、アンナのにぎやかな日常を描いたお話が4つ入っています。</p> <p>(J933-アテ-1110472135)</p>
<p>『タネオがきた』</p> <p>すとうあさえ作 福田岩緒絵 文研出版 2012.5 【小中】</p>	<p>タミオは、両親、祖父母、ひいじいと一緒に熊本にすんでいました。でも、父さんの転勤で、両親とタミオだけで東京に引っ越すことになりました。そんな時、ひいじいが倒れて入院。タミオは、ひいじいが大切にしている裏山のクヌギの実を東京に持って行き、育てようと決めます。芽が出た分だけ、ひいじいが元気になる気がして。東京のアパートのベランダで、さっそくクヌギを育て始めたタミオ。もっとたくさん育てようと、クヌギが育つよい場所をさがしますが…。</p> <p>(J913-スト-1110432102)</p>
<p>『夜明けの落語』</p> <p>みうらかれん作 大島妙子絵 講談社 2012.5 【小中】</p>	<p>4年生の暁音（あかね）は、人前で話すのが何よりも苦手。みんなの前で話さなくてはならない日直の5分間スピーチで悩んでいると、同じ日直の三島くんが、代わりに落語をひろうって助けてくれました。それをきっかけに、三島くんや仲よくなった暁音は、落語に挑戦！三島くんやお姉ちゃん、親友の初音ちゃんに勇気をもらって、みんなの前でやることに…。</p> <p>(J913-ミウ-1110436308)</p>
<p>『こおり(たくさんのふしぎ傑作集)』</p> <p>前野紀一文 斉藤俊行絵 福音館書店 2012.6 【小中～小高】</p>	<p>冷蔵庫のこおりには、白いところや小さな泡があります。その正体は、空気。水がこおりになると空気はいろいろな形になって姿を現します。どのようにしてこおりができるのか、子どもの姿をした水の分子と風船の姿をした空気の分子で、わかりやすく説明しています。透明なこおりを作るには？色のついたこおりはできるの？地球の穏やかな環境が、こおりの性質のおかげという意外な事実もわかります。</p> <p>(J451-マエ-1110446420)</p>
<p>『サースキの笛がきこえる』</p> <p>エロイーズ・マッグロウ作 斎藤倫子訳 借成社 2012.6 【小高】</p>	<p>ある日、人間から姿を隠すことに失敗し、半分人間であることがわかってしまった妖精の少女サースキ。とりかえ子として、盗んだ人間の赤ちゃんのかわりに、人間界においてきぼりにされました。日々怒り泣き叫ぶサースキを実は妖精の子ではないかと疑った祖母のベス。ヤノとアンワラ夫婦に、サースキが取りかえ子がどうか確かめようと提案しますが、夫婦は拒否します。サースキも自分の身の安全のため、人間の子どものふりをします。</p> <p>(J933-マツ-1110442600)</p>

本の情報	内容
<p data-bbox="236 230 647 300">『りっぱな兵士になりたかった男の話』</p> <p data-bbox="320 338 560 472">ゲイード・スガルドリ著 杉本あり訳 講談社 2012.6 【小高】</p>	<p data-bbox="713 226 1410 443">山頂にある風車小屋の監視を命じられた兵士のカスパールは、りっぱな兵士になるために、軍隊の規律をかたくなに守ろうとします。そんなカスパールも、牛を連れてパンとミルクを持ってきてくれる老人とは次第に距離を縮めていきます。しかし、そうしているうち、街は占拠され、上官は死亡。風車小屋にいる彼のことを知る者はもうだれもいません。しかし、次の命令があるまで動くなと命じられていた彼は、小屋から離れず、監視を続けます。</p> <p data-bbox="1166 477 1410 501">(J973-スカ-1110457620)</p>
<p data-bbox="261 535 624 604">『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』</p> <p data-bbox="360 642 523 741">坂本光司監修 旬報社 2012.7 【小高】</p>	<p data-bbox="713 528 1410 719">多摩川には、アロワナ、ピラニア、グッピーなど、アマソンの肉食魚やカラフルな熱帯魚が泳いでいます。人に捨てられた外国の魚たちが、多摩川の自然をおびやかしています。同じような現象が、今日本中で起こっています。著者は、NPO法人おさかなポストの会の創設者。飼えなくなった魚やカメが、川に捨てられないようにと設置した、おさかなポストについても解説しています。</p> <p data-bbox="1166 745 1410 768">(J519-ヤマ-1110457916)</p>